

報告事項 1（周知・報告）

府立富田林中学校・高等学校設置の効果検証について

標記に係る成果と課題、今後の展望について、別紙のとおり報告する。

令和 7 年 3 月 28 日

1. 設立経緯

平成 26 年 3 月、富田林高校の卒業生や地域の方々から、富田林中高一貫校に関する要望書が府教育庁に提出された。その強い要望に応える形で、人口減少が著しい南河内において、教育を軸とした地域活性化に寄与するといった意義があり、また学校及び関係者の熱意や地元の理解と協力により、教育的効果が十分に期待できることから、平成 29 年度に府立初の併設型中高一貫校として富田林中学校を設置した。

2. 学校概要

(1) 教育目標

地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献できるグローバル・リーダー (Global & Local) の育成

(2) 学校のミッション

「地域活性化」 「グローバル・リーダーの育成」 「生徒の満足度と進学実績」

(3) クラス数

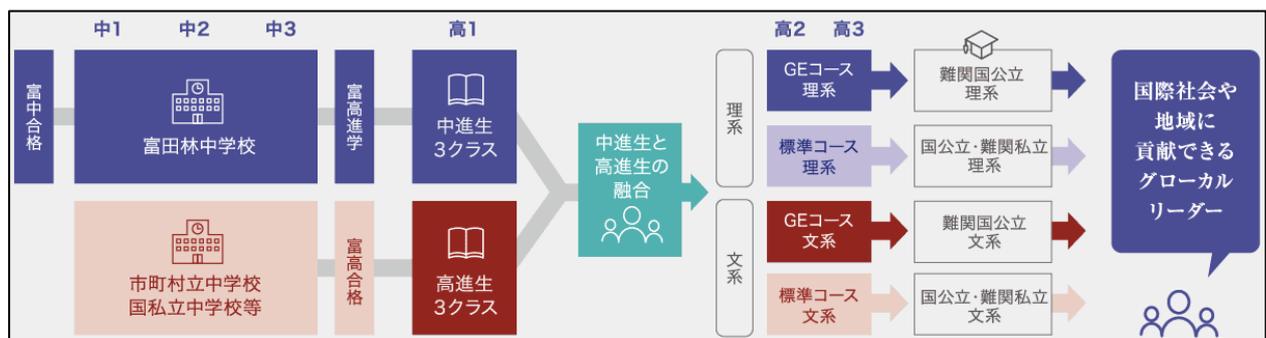
中学校：1 学年 3 学級 120 名、高等学校：1 学年 6 学級 240 名

※高等学校の生徒の半分は中高一貫教育として無選抜で中学校から入学するが、半分は府内の中学校から高等学校入学者選抜を経て入学する。

(4) 教育内容

6 年間を 2 年ごとの 3 期に区分し、中学 1・2 年生は基礎期、中学 3 年生・高校 1 年生は充実期、高校 2・3 年生は発展期として、それぞれの発達段階に応じた教育課程及び教育内容を計画的に実施する。

富田林中学校から富田林高校へ入学した生徒（内進生）と他の中学から入学した生徒（高進生）は、高校 2 年次から GE (Global Explorer) コースと標準コースに分かれたクラス編成とし、幅広い人間関係の中で、共に学び、互いに切磋琢磨できるようにする。



3. 様々な取組みとその成果

(1) 学校の取組み

(ア) SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校（平成 29 年度～）

「探究活動」「地域連携」「海外連携」の3つのプロジェクトを軸に、科学の視点からソーシャルイノベーションを実現できる人材の育成を目標に掲げ、中高6年間を見通したグローバル探究として、実験ワークショップや地域の課題を企業や地域団体と連携して解決する取組みを実施
⇒サイエンスキャッスル関西大会 2022 最優秀賞

令和5年度日本学生科学賞中学生の部 科学技術振興機構賞 など多数受賞

(イ) 海外連携

6年間を見据えたグローバル教育を推進（同窓会・NPOからの研修費支援あり）

(2) 同窓会、NP0からの支援

中高一貫校記念館建設の費用や生徒の語学研修への助成等に充てられている

(3) 地元市を中心とした地域からの支援

大学や企業、行政等 150以上の団体と積極的に連携を図り、学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体となって特色ある探究活動を展開することで、地域活性化に寄与している。

⇒地元農園や簾業者バックアップのもと、特産品を活用した商品開発
 リアビズ高校生模擬起業グランプリ 令和4年度金賞、令和5年度グランプリ

(4) 進学実績

	R1	R2	R3	R4	R5		R6	
					高進生	中進生	高進生	中進生
京大	0	1(1)	0	0	2	4(2)	0	2
阪大	3(1)	1	1(1)	1	13(2)	12(4)	3(2)	10
神大	1	0	4	1(1)	6	6(2)	1	5
その他 国公立大	68(21)	67(23)	58(7)	52(5)	69(3)	64(6)	29(3)	40
合計	68(22)	69(24)	63(8)	54(6)	90(5)	86(14)	33(5)	57

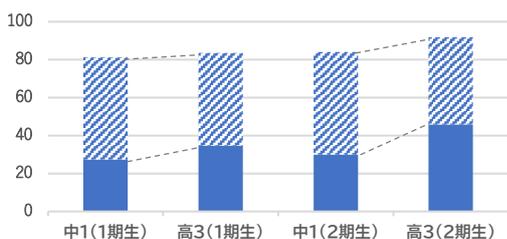
※ R4までは、富田林高校の生徒のみの実績。R5から中進生を含む。

※ ()内数字は浪人生の数値で内数

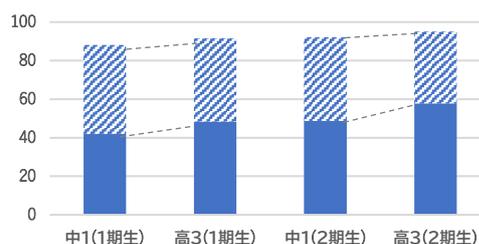
(5) 学校教育自己診断結果（生徒の意識の変容）

※以下のグラフは、4つの選択肢（①当てはまる ②やや当てはまる ③やや当てはまらない ④当てはまらない）のうち、①②を選択した生徒の割合の変容である。

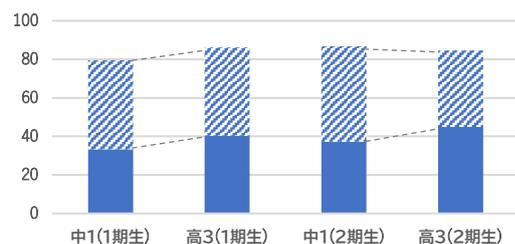
・内容を深く考えさせる授業が多い



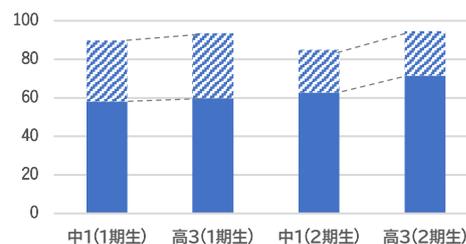
・学校は様々な教育活動を通じて、社会への貢献意識や将来社会で活躍する力の育成に努めている。



・「探究」などの学習活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身につく



・富田林高校(中学校)へ入学してよかった



※高3のデータについては高進生を含む。

4.課題

- 地域の中学校と比較すると、通学区域が広範囲にわたり、家庭との物理的な距離があることから、不登校生徒への迅速な支援などが難しい場合がある。
- 中進生については、いわゆる高校入試がないことなどを背景として、生徒間での学力や学習意欲の差が顕在化しており、きめ細かなフォロー体制の充実が必要。
- 中高を連続して受け持ち、特色ある中高一貫教育を担う教員の配置、養成。

5. 検証のまとめ

- 6年間の系統的な教育活動をとおして、生徒がお互いに切磋琢磨することで、学力の向上や進路の実現はもとより、生徒の個性の伸長につながった。
- これらの成果は、地元市を中心とした地域や連携企業等から協力を得られたことが大きく、地域と一体となった活動を継続的に展開することが、地域活性化につながっている。
- 中進生について、生徒間での学力や学習意欲の差をどのように解消していくかなど、課題の解決策については、引き続き、検証を踏まえた考察が必要。
- グローカル・リーダーの育成については、早急に結果が出るものではなく、継続した考察が必要。

6. 中高一貫校の今後の展望

- 中高一貫校を新たに設置するに当たっては、その目的、趣旨、ねらい等を明確にし、地元市町村や地域の理解を得る必要がある。
- 大阪市から移管された咲くやこの花中学校、水都国際中学校についても成果を整理し、共通の課題があるか等検証を進める。
- 中高一貫校のあり方を検討する中で、今後、府内市町村に対し、この間の効果検証結果を共有する。その上で、中高一貫校の新たな設置について、府内市町村からの積極的な協力や意向等の把握に努める。